

平成24年度文化庁委託
「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

「多文化共生コミュニティ形成のための日本語教育事業」

子育てや災害時など、
住民同士が言葉の壁を越えて助けあう
多文化共生コミュニティを目指す。

キーワードは 共通言語としての日本語

- 外国人住民への日本語教育の充実を図る
- 日本人に日本語教育の重要性を知ってもらふ
- 支援する強い手同士の連携を促進



事業のフレーム

方針の決定・管理（運営委員会）

つながる 地域の多様な担い手が
学びながら連携する

ふれる 子育て・防災・日本文化
日本語にふれながら学ぶ

知らせる 公開型シンポジウムの開催



公益財団法人 札幌国際プラザ

【沿革】
1987年8月 北海道札幌国際交流プラザ運営委員会設立、札幌国際交流プラザ開設
1990年1月 公益財団法人札幌国際交流プラザとして設立（理事長 宇野 浩一）
1991年7月 財団法人札幌国際交流プラザ設立
2011年4月 公益財団法人へ移行（3月22日議定、4月1日発効）

【組織構成】（平成25年4月1日現在）
役員 18名 職員 37名

- 【基本理念】
1. 国際文化の交流事業（外国人と日本人の交流、ボランティア活動の推進）
2. 多文化共生事業（外国人への生活支援、国際交流の推進、多文化社会の形成）
3. 国際文化の普及事業（外国人への生活支援、国際交流の推進、多文化社会の形成）
4. 国際文化の普及事業（外国人への生活支援、国際交流の推進、多文化社会の形成）



【基本理念】3C方式
Communication...国際交流
Convention...コンベンションの開催
Citizen...市民参加

平成24年度「生活者としての外国人」のための
日本語教育事業—地域日本語教育実践プログラムB—

多文化共生コミュニティ 形成のための日本語教育事業

公益財団法人札幌国際プラザ

ふれる

生活する様々な場面で、実際に使う
日本語にふれながら学ぶ機会づくり。

- ①「子育て・教育」
- ②「防災」
- ③「日本文化・スポーツ体験」

【事業への参加の動機】
⇒必要性を感じる。興味がある。
楽しそう！

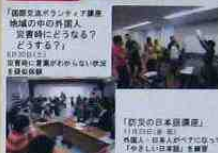
ふれる ①「子育て・教育」



ふれる ①「子育て・教育」



ふれる ②「防災」



ふれる ②「防災」



ふれる ②「防災」



ふれる ③「日本文化・スポーツ体験」



ふれる ③「日本文化・スポーツ体験」



ふれる ③「日本文化・スポーツ体験」



知らせる 事業成果の報告・発信



知らせる 多言語での広報



まとめ、今後の展望

- 「生活者としての外国人」への日本語教育の重要性を広く知らせる機会の創出
- 多様な担い手による日本語教育の充実、強い手同士のつながり、広がり
- 外国人、日本人の意識変革、外国人は支援される側から、支える地域づくりの担い手へ